

## 【オナニー愛好家】

変態ドHな女の子はオナニーグッズ買いに行くだけでも  
いっぱいオナニーしちゃうの

双葉 「ぱちぱちぱいす」

双葉 「オナニー愛好家～変態DHな女の子はオナニー  
グッズ買いに行くだけでもいっぱいオナニーし  
ちゃうの～」

イントロダクション

双葉 「オナニーが大好きで、すぐにどんなオナニーを  
しようか考えちゃう女の子。」

双葉 「ついに好奇心からローターなどのえっちなグッズ  
を買いに行くことに。」

双葉 「でも街中にはえっちな誘惑がいっぱい！」

双葉 「妄想が止まらず我慢も限界！ついオナニーをはじめてしまつ……」

//★トラック1：学校から帰宅した少女はすぐオナニーしちゃうの

●ヒロインの部屋

双葉 「ただいまあ～…………はーっ、今日も疲れ  
たあ。先生の話、長すぎるから思つたより遅く  
なっちゃつた」

双葉 「さつ、オナニー～オナニー。学校でずっと我慢し  
てたからすつ～ぐ溜まっちゃつた」

双葉

「学校でもオナニー休憩室とかあつたらしいのに普通、人は3時間もすればムラムラするんだから、もっと世の中にそういう配慮って必要だよね」

双葉

「今日のオカズはこれ！ はあ～うつ、昨日の夜はオナニーしちやつた後だったからできなかつたけど、まさかこんなにエッチな動画に巡りあえるなんて」

双葉

「サンプル動画だから短いけど、この剥き出しのクリトリスにローターを押し付けられるプレイ……私もやられてみたいなあ」

双葉

「あ、ああ……私も……ふああつ、私もおううつ」

双葉

「んは、あつ、指で……ローターなんて持つてないから……ひんつ、指で擦つて……」

「あ、ああつ、もう、おまんこ、びりびりする、う、あつ……おまんこ、もう、ぬるぬるで……ぶあつ、ていうか、学校で、我慢してた時から、ぬ、濡れちゃつてたし……」

双葉

「ふああつ、これ好きい、んあつ、クリオナ、あ、あつ、クリトリスぐりぐりするオナニー好きなおつ！」

双葉

「今日は、まだ、お母さんもいないから、あ、ふ  
あつ、大きな声、出せるし、い、ひ、ああ  
ああっ…！」

双葉

「んは、あ、ふあつ、う、は、ん、はああっ…  
あああつ、は、あつ、んはあああつ、ひ、は  
あつ、あああんつ…！」

双葉

「これえつ、んあつ、ぬるぬる、クリトリスに、  
塗つて、あ、あ、これが、いいのおつ、ふ  
あつ、気持ちいい、のおつ…！」

双葉

「剥き出しのクリトリス、う、はあつ、」、「ん  
なに乱暴にしたら、あ、ああんつ、ビリビリす  
るうつ、ん、んんつ、すぐ、ふ、はつ、すぐ  
いつちや、うううううううううううううう…！」

双葉

「ん、はつ……あ、はあつ……はあつ、は  
あつ、はあつ、はあつ、はあつ……」

双葉

「ああ……もういつちゃつた……動画、エッ  
チで気持ち良かつたけど……はあ……なんか…  
……いつも通りなんだよねえ」

双葉

「やつぱり慣れちゃつたのかなあ。もつと刺激が  
ないと、ちゃんと満足できないのかも…」

双葉

「でも、刺激って言つたつて、うちだとエツチな本を買うのだつて難しいし、通販利用したつて学校に行つてる間にお母さんが受け取つたりしたら大変だし……」

双葉

「はあ～～つ、ローター欲しい、バイブ使ってみたい、ローション全身に塗つて全裸オナニーしたい」

双葉

「……」んな事思うの私だけかな。友達のみんなはどうしてるんだろ。……オナニー、してるのはね?」

双葉

「もしかして、みんなは持つてるのかな。ローターとかバイブとか……どうやって買つてるんだろう」

双葉

「……やつぱりお店に行つているのかな。隣町に少し大きなアダルトショップがあるし、みんなそこを利用してるのかも……」

双葉

「私も……行ってみようかな。ちゃんと変装すれば大丈夫だと思うし……今からだつたら明るいうちに帰つてこられるはずだし……」

双葉

「……うん、何事も行動を起こさないと始まらないよね。学校の先生からも、もう少し積極性を出していいって言われてるし。きっとそれが今なんだよね」

「こんな事もあろうかとお小遣いもずっと貯めて  
きたし……よしつ！」

「こ、こなんものかな？ これなら大丈夫だよ  
ね？ もしも、友達がお店にいたりしても私  
だつてバレないよね？」

「き、緊張してきた……（深呼吸）す———つ、  
は———つ、す———つ、は———つ……大丈夫  
……落ち着いて……ちょっと買い物するだけな  
んだから」

「お使いで豆を買つたりニンジン買つたりするの  
が、ローターとバイブになるだけなんだから」

「きつと…… 大丈夫つ……！」

//★トラック2：街にはドキドキがいっぱい少女はすぐオナニーしちゃうの  
●町中（駅前のイメージ）

「わあ～っ、ここの時間帯でも結構人いるんだ。  
こっちのほうに来たの久しぶりだけど、こんな  
感じだったかなあ」

「色々寄つてみたいお店はあるけど、今日は我慢  
我慢。大切な目的があるんだから」

「えっと、電車に乗つて、隣町で降りて、北口か  
ら出て真っ直ぐに歩けばいいんだよね」

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉 「よし、余計な事は考えずに、今日の目的に集中集ちゅ…………って……えつ！…？」

双葉 「な、何あれ？あの男の人、なんであんなに股間を膨らませてるの？ぼ、勃起してるの？」  
「でも、こんな場所で勃起するなんて変だし……も、もしかして、あれで通常サイズなの？だったら、勃起したらいつたいどれだけの大きさ……」

双葉 「あ、ダメ。見ちゃダメ。そんなのが失礼だし、誰かに気付かれたらなんて思われるか……」

双葉 「でも、本当にす”い。あんなのが入つておまんこ擦られたら、やっぱり気持ちいいのかな？セックストでした事ないけど、漫画とかだと大きいほうが気持ちいいみたいだし」

双葉 「み、見てみたいなあ。どんなおちんちんなんだろ。やっぱり勃起すると、太くて反り返つたりするのかな？」

双葉 「ああ……想像してたらムラムラしてきちゃつた。オナニー……オナニーしたくなっちゃったよお」

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

「ど」かできないの？ オナニーできる場所ないの？ こんなにいっぱいお店があるんだから、そういうのができるお店があつたついのに……どうしてオナニー屋さんはないの？」

双葉

「ダメダメ。何を変な事を考えてるの？ そんなお店があるわけないじゃない。もっと冷静になつて」「

双葉

「今日は目的があるの。こんなところでオナニーできる場所なんて探してる暇はないの。電車だつて一本逃したら、二十分は待たないといけないんだから」

双葉

「でもでも、あんなおちんちんを見ちゃつたら、やつぱりそれをオカズにしたくなるのは人として当然だし、こんなチャンスを逃したら一生後悔するかもしれないし」

双葉

「あの人はずつと同じ場所に立つてるから、遠くからでもいいから、ずっと眺められる場所でできるといいんだけど……」「

双葉

「だからダメだつてば！ あの人を見る位置からするつてことは、あの人からも自分も見られる可能性があるってことじゃない！ そんな事になつたら社会的に終わっちゃう！」

双葉

「落ち着いて。冷静に。今日だつてよりよいオナニーをするための道具を買いに行くだけなんだから。それまでちょっとの我慢。……電車で移動して、お店に行って商品を買って帰つて来るまでの我慢でしょ！」

双葉

「でも、……買い物に行くのはいつだってできるけど、あの人のおちんちん想像しながらオナニーするチャンスは今しかないの。本当の意味で冷静になつて。このチャンスを逃したら、どれだけ後悔するかわからないのよ」

双葉

「それにほら……、あそこ」の路地の奥のほうだったら、真っ直ぐにあの男の人見ることができるて、それでいて他の人からは見つかりにくはず」

双葉

「あの人があいつまであそこ」にいるかもわからないんだし、こうなつたらもう善は急げだよね！」

双葉

「こ」ならしいはず……うん、バツチリあの人を見える。それに、ちょうど横からの角度になつて、盛り上がつておちんちんの形もわかる」

双葉

「やつぱり大きい……どう見ても亀頭は上を向いてるよね。まるであの人のズボンが透けて見えるみたいに、おちんちんの形が想像できる！」

双葉

「二」の想像しちゃつたら、もつ我慢できないよ。「こ」で服を脱ぐわけにはいかないけど、ちょっとスカートをめくって、パンツの上からおまんこをいじるぐらいだつたら……」

双葉

「ふ、はあつ……あ、あ……今まで、いっぱいオナニーしてきたけど……んつ、外でするのは、あ、初めて……あ、あ、しかもこんな……街中で……」

双葉

「ふあああつ、ゆ、指で軽く撫でてるだけなのに、んんつ、気持ち、いい……いつもと、ふ、あ、全然違つ……んあつ、体が、感じやすくなつてゐ……んふあつ……」

双葉

「あ、ああつ、ふあ、んつ……声、出ちやう、あ……ちよつと、擦るだけで……んんうつ、ビリビリする」

双葉

「はあつ……はあつ……熱い……体が、燃えてるみたい……ふ、あつ……これ、す、す」「いよお」

双葉

「す」「ぐ感じて……あ、ふあつ、おまんこ……んあつ、濡れて、きてる……あ、んああつ……なんだに早く、濡れるなんて……あああつ……」

双葉

「普段、い、家でしてるとときは、んあつ、こ、こ  
こまで早くないのに……んく、あ、ふああつ：  
…ああ、どんどん、溢れてくる」

双葉

「はああつ、気持ちいい……気持ちいいよ……才  
ナニ一氣持ちいいよお……！ こんなに気持ち  
良かつたら、あ、はああつ、すぐ、イ、イつ  
ちやうよお……！」

双葉

「ああ、あの人、おちんちん、んんうつ、見た  
い……想像じやなくて、本物、見てみたいよお  
……そしたらもつと、んんんつ、き、気持ち良  
く、なれるのに……！」

双葉

「はあああつ、本物のおちんちん、本物のおちん  
ちん、本物のおちんちん、本物のおちんちん、  
本物のおちんちんんんうううつ！」

双葉

「あ、はあつ、ああつ……パンツ、濡れて……あ  
ああつ、もう、この辺に、しとかなきや……ん  
んつ、このままじゃ、ふあつ、パンツ、  
んうつ、びしょびしょに、なっちやう、ん  
んあつ！」

双葉

「でも、んあつ、濡れたら、濡れた分だけ、ふ、  
あつ、指で、パンツに、んんうつ、押し込むみ  
たいにして、んつ、んつ、強く、擦つたら、ん  
んうつ、もつと、いい……気持ちいいつ……  
！」

双葉

「ダメ！ んぐうう、ここで、ふ、あつ、やめる  
なんて、んあ、うう、そなな、んんう、もつ  
たいない事、で、できない」

双葉

「はああつ、あのおちんちんを見ながら、あ  
あつ、もつこした股間を見ながらのオナ  
ニー、ふ、あああつ、せ、最後まで……最後ま  
でしたい……」

双葉

「はあつ、はあつ、擦つて、ん、ああつ、おま  
んこ」擦つて、もつと、ふ、あつ、指、に、2本  
……んんつ、3本にして、あ、んんつ、あの人  
のおちんちんで、こ、こすられてるみたいに、  
して……ふああつ…」

双葉

「はああつ、イ、イキやつ、指で、んあつ、  
あ、はあつ、想像だけど、ふ、あつ、おちんち  
ん、パンツで擦られてるみたいに、して、あ、  
あつ、イク、おまんこ、お、ふあつ、おまんこ  
イクッ、イっちゃ、う、ううう……」

双葉

「うう、ん、ん、くうつ、ふううつ、イクッ、  
う、イクイクイク、ん、ううつ、おまんこイク  
ウウ、いつちやうう、のおおお、んひや  
ああつ、おまんこいつちやうのおおおお  
つ……」

双葉

「んんんんんんんんんんんん……！」

双葉

双葉  
「あ、あ……お汁、垂れちゃう……」なんに、濡  
れちゃう、なんて……」

双葉  
「あ……あの人、行っちゃった……はああ……  
まるで、私のオナニーが終わるのを待つてて  
くれたみたいに……」

「えつ！？ まさか本当にそうじゃないよね！？ 気付かれたりしてないよね！？」

「ううつ、でも、もしも本当にそうだったら……」  
「ううつ、もう行こう」

うの  
//★トラック3..電車の中でも周りに人がいないと少女はすぐオナニーしちゃ

「あ、良かった。」の車両、他に誰もいない

「はあううつ、疲れたあ。まさか電車に乗る前に、あんな事しちやうなんて」

「で、でも、あれは仕方ないよね。漫画とか動画以外であんなに大きなおちんちんを見たの初めてだつたし」

双葉  
「あんなの創作物だけのものだと思ってたけど、  
本当にいるんだ……」

双葉

「あ、ダメ。思い出したらまたしたくなっちゃう。外の景色でも見て気を紛らわせないと」

「ああ……いい景色……電車に乗るのも久しぶりだし……なんだか気持ちが穏やかになつてくるかも……」

双葉

「この辺りでちょっと電車で移動したらのどかな田園風景が広がつてて、子供の頃から電車に乗るたびにずっとこの景色を見てたんだよね」

双葉

「最近はすっかり忘れてたけど……うん、やっぱり好きだなあ。ずっとこの景色を眺めてたら、オナニーの事も忘れられそう」

双葉

「てつ？…………え、えつ…………えつ！？ 今見えたのって…………み、見間違い？ 大きな木の陰のところに、男の子と女の子がいたように見えたけど…………っていうか、キスしてたように見えたけど…………」

双葉

「確かにあの場所だったたら他の人には見えないし、安心してキスできるかもしないけど……」

…

「恋人同士……だったのかな？ きっとそういうだよね。キスしてたんだしだよ」

双葉

双葉

「いいなあ。そういう人……恋人がいたら……  
……きっとオナニーだけじゃなくて、セックス  
……外だし……ないと思うんだけど……」  
「だってするよね」

双葉

「あ……、もしかして、の人達ってあの場所で  
……い、いや、それはないよね。さすがに  
……外だし……ないと思うんだけど……」  
「でも、確かにあの場所って周りからは見えにく  
いし……電車が高い位置を走つてだからたまた  
ま見えたけど……見えたとしてもどこの誰かな  
んてわからないし……」

双葉

「しゃう、のかなあ……見たのはキスだっただ  
け、今はもう少し先まで……え、えっちなこと  
……してたりするのかなあ……そうだとし  
たら……いいなあ」

双葉

「私も……もしも……もしも彼氏がいたら……  
……あ、ヤバい。ムラムラしてきちゃった」

双葉

「こ、こなんところで……電車の中でのオナニーな  
んてできないのに……」

双葉

「でも、周りには誰もいないし、車掌さんが来る  
わけでもないし……ちょっとくらいだったらい  
けるのかも……」

双葉

「ダメダメ！ いくら何でも電車の中なんて危険過ぎるよ！ 誰か来たら『まかしようがないんだから！』

双葉

「……でもでも、確かに椅子に座つて大きく足を開いたりしてたらバレちゃうかもだけど、たとえば出入口付近に立つて窓のほうを見てたら？ ……人が来たらパツて背中を見せればバレずに済むかも……」

双葉

「バレるに決まってるつて！ もうちょっと我慢すればショッピングでアダルトグッズを買って、自分の部屋で好き放題オナニーできるんだから、『ここは我慢しなきや！』

双葉

「でもでもでも、電車の中でオナニーする機会なんて滅多にないし、こんなふうに車両に人がいないなんてもう一度とないかもしないし……」

双葉

「そう……もう一度とないかもしれないんだから……』のチャンスはしっかりと掴まなきやつ！』

双葉

「うん、『ここ』でしなかつたら絶対後悔するよね。見つかったら見つかった時だよね』

双葉

「オナニーする場所は……あそこ』が良さそづ

双葉

「ニニから窓のほうを向いて、車内にはなるべく背中を見せるようにすれば……ああ、ドキドキしてきた」

双葉

「スカートの中に……手を入れて……」

双葉  
「は、ああ……パンツ、まだ濡れてる……ん  
んうつ……オナニーしたら、あ、ふあつ、  
また、濡れちゃう」

双葉  
「ん、んんつ……大丈夫、だよね……んふつ……  
誰も来なかつたら……誰にも、あ……バレない  
よね」

双葉  
「それよりも、ん、く、ん、あんまり、き、気持  
ち良さそうな、顔、してたら……んあつ……外  
の人達に……バレたり、あ、あ……しないか  
な？ んんつ、し、しないよね？」

双葉  
「電車は、動いているんだから、あ、あつ、見え  
たつて、んんうつ、一瞬、だよね」

双葉  
「だつたら、んあつ、だ、大丈夫な、はず……ふ  
あ、う、はあつ……こんな顔……見られたつ  
て、んあつ、だ、大丈夫……ふ、あつ、見られ  
たつて……んんうつ、見られても……」

双葉

「見られても、んく、あ、大丈夫、なん、だった  
ら……ふ、あつ、ああつ、お、おっぱい、見ら  
れても……大丈夫、だよね？ 見られたって、  
ひんつ、ど、どこの誰かなんて……んううつ、  
わからないんだから……」

双葉

「それ、なら……それなら……ああ……」  
「ああつ、こ、こんなところで、私……あ、  
んつ、おっぱい……ぶああつ、おっぱい、だ、  
出しちゃった……あ、んああつ、は、恥ずかし  
い……」

双葉

「恥ずかしい、けど……んあつ、でも……ふ、  
あ、はあつ……こんなの初めてで……ドキド  
キして……ああ……」

双葉

「おっぱい、出してるんだから……んんつ、乳  
首、とか……ふ、あ、いじつても……い、いい  
よね」

双葉

「あ、あつ、指で……カリカリしたら、あ、ふ  
あつ……き、気持ちいい……ふ、んああつ……  
……」

双葉

「ど、どうしよう、んつ、う……」んなに、き、  
緊張して、ふあつ……でも、あ、なんか……は  
あつ、気持ちいい……」

双葉

「まさか、あ、んうつ、電車の中で、オナニー、  
んんんつ、する日が、あ、くる、なんて……  
あ、あ、あああつ……！」

双葉

「えつ？ あ……今、そ、外にいた人……ん  
んつ、私のほう、見てた？ 気のせい、か  
な？」

双葉

「でも、んんうつ、き、気付かれたのかも……  
く、ふうつ……電車の中での、お、おっぱい、出  
してる女がいるって……ん、ん、見られ、  
ちゃつたのかも……」

双葉

「もうだと、したら……ふ、あつ……さ、さつき  
の人に、んんんつ、おっぱい、見られた？  
ああつ、見られちゃつた、のかな？ ふあ、あ  
ああつ、初めて……し、知らない人に、ふ  
ああつ、おっぱい見られちゃつたあ！」

双葉

「ど、どうしよう、んあつ、どんどん、ドキドキ  
して、きた、あ、ふああ、うつ、オナニーが、  
き、気持ち良くて、なっちゃう」

双葉

「乳首、んぐうつ、か、硬くなつて、く、ふう、  
ううつ、おまんこも、ん、んつ、クリが……  
あ、あ、パンツの上からでもわかるくらい、ん  
んんつ、クリトリスが、ふ、膨らんで、硬く  
なつてゐ、う……」

双葉

「あ、あつ、気持ちいい、んあつ、感じ、  
る、う、ふあつ、ん、あああつ、おっぱいも、  
んん、乳首、グリグリって、すると、お、は  
あつ、あああつ、感じ、ちやう……！」

双葉

「はあつ、はあつ、気持ち、良すぎて、ふ、  
あつ、ダメ、あ、これ……んああつ、よ、良す  
ぎる、う、はあつ……ど、どんどん、濡れちゃ  
う」

双葉

「……」「はあつ、ん、あ、また……外の人、わ、  
私を、見た……んんつ、電車の、動きに合わせ  
て、ふ、あつ、こっち、見てた……あ、あ、  
おっぱい、み、見られちゃった、あ、あ、オナ  
ニー、してるどこ、ふあつ、し、知らない人  
に、見られちゃったあ……！」

双葉

「あ、あ、ゾクゾク、するう、んんつ、オナ  
ニー、見られるなんて、あ、ほ、本当に……ん  
ああつ、こんな事が、あ、できる、なんて……  
し、知らなかつた……ふあつ、電車オナ  
ニー、さ、最高つ！」

双葉

「誰も……んうつ、誰も来て、ないよね？ あ  
あつ、も、もつちょっと……もつちょっとだけ  
……ん、うつ、イ、イケそう、だから……！」

双葉

「もつと、んくつ、ぬるぬる、を、ふあ、おまん  
この、お汁、ん、んんつ、ぬるぬるのお汁、  
もつと……ク、クリトリスに、塗つて……  
んはあああつ、これいいっ！ クリトリス、ぬ  
るぬるにしたら、あ、はああつ、たまらな  
いっ！」

双葉

「こんなの、もう、んんつ、パンツいらない……  
履いてたって意味ない」

双葉

「これで……あ、あ、もつと激しく……んあ  
ああつ、クリトリス、あ、んんつ、乳首とクリ  
トリス、グリグリして、ふ、あ、ああああつ……  
…気持ちいいよおおおつ……！」

双葉

「わ、私、こんな……んあつ、オナニー好きな、  
ふ、あ、あつ、人より、お、多いことは、わ  
かつてたけど……あ、はあつ、こんな、外  
で、あ、外でして、んあつ、こんなに、興奮で  
きるなんて……」

双葉

「私の、んんっ、へ、変態さん、だったのかも……ん、ん、んううつ、外でオナニーして、んふあつ、だ、誰かに……んんんっ、もつと、外の人に、み、見られたいって、思い始めてるんだもん」

双葉

「あ、また……今度は指差してた……ぜ、絶対見られた……私の、んんっ、おっぱい、ふ、あつ、乳首、グリグリして、あ、んんんっ、オナニーしてるところ……！」

双葉

「はあつ、はあつ、もっと、グリグリつて、ん、うつ、クリトリス、か、皮を剥いて、剥き出しにして、ん、くうつ、指で、擦つて、ふあ、あつ、摘まんで、ん、んっ、ひ、引っ張るのも、いい……！」

双葉

「ふあああつ、お汁が、どんどん垂れて……パンツも履いてないから、あ、あ、床に、落ちちゃう……んくうつ、電車、汚しちゃ、あ、はあああつ……で、電車のお掃除してる人、「めんなさい」

双葉

「んん、んううつ、でも、我慢できないの、お、ふああつ、おまんこ、ひくひくして、ん、んつ、もう、クリトリスだけじゃ、あ、あつ、我慢できなくて、んんっ、もっと、奥まで……おまんこの奥も、ふあああつ、気持ち良くて、なりたい……」

双葉

「ああ、おまんこの中に指をつっこみたい。おまんこの中に指をつっこんで、ぐちゅぐちゅに搔き回したい。そしたらもっと気持ちいいだろくなあ」

双葉

「ダメだよ。そんな事したらおまんこ汁がもつとこぼれて、もっと床を汚しちやう。そしたら、お掃除する人がもつと大変になっちゃうよ」

双葉

「でも、電車オナニーのチャンスなんてこれが最初で最後かもしないし、それなら思いつきり気持ち良くなつておかないと損だし」

双葉

「ダメだつてば！ 人の迷惑の事を考えられないようになつたら、人として終わりだよ。電車オナニーして女の子として終わつても、人としては終わつちゃダメだよ」

双葉

「でもでも、電車オナニーしてる時点で人として終わつてるような気もするし、だったらとことんやつちやつたほうが得だし」

双葉

「本当にダメだつてば！ もしも人が來たら、オナニーをしてるところがバレなくとも、床が濡れてるのを見てばれちゃうかもしれないんだよ…」

双葉

「でもでもでも、もうここまできたらおまんこぐつちょぐちょにしていきたいし……絶対そのほうが気持ちいいし……」

双葉 「ああ、もうダメ……考えてるうちに、手が勝手に動いちやうー！」

双葉 「んはあああああつー！ ゆ、指いつ、ひ、おまんこ、ぬるぬるで、んあつ、に、2本も、んんつ、簡単に、は、入る……くぶああつー！」

双葉 「あ、あ、これつ、おまんこの中、あ、擦つて、ひ、あつ、そ、想像してたより、んあつ、ずつと、いいつ、気持ちいいつー！」

双葉 「ひゃあ、あつ、はあつ、クリトリス、グリグリ、しながら、あ、んくあつ、おまんこズボズボするの、お、さ、最高おおつーー！」

双葉 「おまんこ汁つ、こ、こぼれちやうけど、お、ふひやああつ、もう、し、仕方ないよねー!? んあああつ、これ、こんなのすぐ、イクッ、ん、んつ、うううつ、イっちゃう、う、イクッ、イクイクイクッ、おまんこイクッ、電車オナニーでイクウツーー！」

双葉 「あ、また見てる、う、あつ、外にいた人、あ、ああつ、私のこと、み、見てた、あ、ああつ、見てつ、もっと見てつ、みんな見てつ、ひ、ああんつ、私の……私のオナニー見てええつーー！」

双葉

「イクッ、ん、ああっ、声も、が、我慢できな  
いっ！ お、おつきな声、出ちやう！ は  
あっ、あ、ひ、ひやあああああ！」

双葉

「わ、私、イクのっ！ 電車の中でっ、ち、乳首  
とクリトリス、グリグリしながら、はあ  
ああっ、おまんこズボズボしながら、あ、あ  
あっ、おまんこ汁垂らしながらイクのっ、お  
おおっ、おまんこイクのおおつ……」

双葉

「あああああ、もうホントに、ダメッ、イクッ、  
う、ぐうう、イクッ、イクッ、ん、んん  
んっ、イクッ、イクッ、イクイクッ、イクウ  
ッ、う、うう、うううううううううううう  
……」

双葉

「おまんこ」イッちゅうりゅうりゅうりゅう  
リリリリリリリリリリリリリリリリリリリ

—————  
「……」

双葉

「ふ、ふああう、はつ、は、あ、あああ  
んはあああああああああああああああああ  
……」

「はあう……はあう……はあう……はあう……  
イ、イッちゅう、たああ……」

双葉

「ああ……頭、と、飛んじやい、そ  
……」、「んなに、濡らしちやつた」

双葉

「ああ……頭、と、飛んじやい、そ  
……」、「んなに、濡らしちやつた」

床

「あ、」の景色……もつすぐ駅に着いちゃう……  
「」、「」から離ないと……」

「うつ、パンツ、床に置いてたからす」「く濡れ  
ちゃってる……もう、こんな履けないとお  
「で、電車の掃除する人、ごめんなさい。ついで  
に処分しちゃってください」

●人気のない住宅街の道  
//★トラック4：公園で休憩しても鉄棒を見たら少女はすぐオナニーしちゃうの

「はあ……はあ……はあ……頭がフラフラする……  
…電車の中のオナニー、すごく気持ち良くて激  
しくしちゃったからだよね」

「さつきの駅、人が多めに乗つて来てたし、今頃  
大騒ぎになつてるかも……」

「でも、あんなチャンス二度とないかもしれない  
し、やっぱり気持ち良かつたし……あ、ダメ。  
思い出したらまたムラムラしちゃう」

「あれ？」「」、「公園なんだ。……ちょっと」「」  
で休もうかな」

●公園  
「はううう、ベンチに座れて良かつた。」「」で体  
力回復してから行けばいいよね」

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

「……いい天気。ポカポカして気持ちいい。こうやつてぼんやりしてたら、オナニーの事も忘れられそう」

双葉

「つて、忘れるわけにはいかないけど。ローターとかバイブを買うために、わざわざ来たんだから」

双葉

「でも、今はちょっと忘れててもいいかも。またここで変な事思つたら、オナニーしたくなっちゃうかもしれないし」

双葉

「まあ、誰もいない公園でムラムラしたりするはずがない…………あ、鉄棒…………」

双葉

「そういうえば、私がオナニーにハマッたきっかけも鉄棒だつたつけ。鉄棒に片足をかけてぐるんつて回つたら、それがすごく気持ち良くて……友達に気付かれないように、何度も同じ回り方して……」

双葉

「でも、そういうば一緒に遊んでた女の子も何度も同じ回り方をしてたような……アレってもしかして、あの子も気持ち良くなつたのかな？お互いに遊んでるフリをして、鉄棒におまんこ擦つてたのかな？」

双葉

「鉄棒に…………おまんこ、擦る…………」

双葉

「二」の公園、誰もいない……。それに鉄棒の位置が、トイレの建物の陰になつてゐるから、周りからはちょっと見えなくなつてゐる

双葉 「トイレの壁に一番近い鉄棒だつたら、こいつをさり使つても誰にもわからないんじゃ……」「

双葉 「ダメよ。私、何を考えてるのよ。公園の鉄棒は子供達が使うものなのよ。オナニーするための道具じゃないのよ」

双葉 「でも、確かにそれはわかるけど、私がオナニーにハマるきっかけになつたのは鉄棒なんだから、その責任を取つてもうべきじゃないじゃないの？」

双葉 「何を言つてるの！ 私がオナニーにハマッたきっかけの鉄棒はこの公園の鉄棒じゃないのよ。責任を取つてもう筋合いなんてないじゃない！」

双葉 「でもでも、うちの近くの公園はいつも子供達がいっぱいだから、鉄棒を使うことなんかできなさいし……そうよ！ これはチャンスなのよ！」

双葉 「ダメダメ！ 私、今、パンツ履いてないんだから！ 鉄棒なんでしたら……それこそ、片足を上げて回つたりしたら、鉄棒に直接おまんこをくつつけちゃうことになるじゃない

双葉

「でもでもでも、だから」「そこ」はチャンスなのよ。大丈夫。ウェットティッシュはもつてるから、回る前に拭いて、回った後にも拭けば綺麗になるよ。むしろ、普段から誰も拭いたりしないんだから、私がオナニーした後の鉄棒はいつもよりも綺麗になつてゐるはず！」

「そうよー、そう考えれば win-win の関係じゃない！ 何も躊躇う」となんてなかつたのよー」

双葉

「誰もいないし……やるなら今しかないよね」

双葉

「えりと、まずはしっかりと拭いて…………うん、こんなものかな。あとはこれに飛び乗つて……」

双葉

「よつと……えつと、」「うやつて……片足を引つ  
かけて……あ、やつぱり」の体勢だと、お  
まんこがぴつたりくつつく

双葉

「…………冷たくてちよいと氣持ちいい。でも、おまんこのあるぬるが、もう鉄棒につこりやつ  
「これで……ぐるりと回れば…………」、「こんな感じ」

双葉

双葉

「んひやつー？…………あ、ああ、今のつて……ち、ちょっと痛かったけど、でも、気持ち良かった」

双葉

「あ、あつ…………ぬるぬる…………いやつて鉄棒に塗り付けたり…………も、もつと、気持ち良くなるんじゃ…………ん、んんうつ…………」

双葉

「あ、ヤバい…………おまんこ、鉄棒に擦りつけるのつて…………ものす」「ぐ気持ちいい」

双葉

「もう一回…………もう一回このまま回つたら…………んんうつ…………」

「ひゃわああああつ…………」「れ、ヤバいよ。思つてたよりずっと気持ちいい。「んなの知つちゃつたり…………あ、あつ、もつと、こうかな？鉄棒に押し付けるみたいにして、おまんこ擦り付けたり…………」

双葉

「ふあああつ、ああ、ん、はつ…………ヤバい  
いいつ、これええつ、は、あつ、学校の教室で、んんうつ、机の角におまんこ擦り付けたことはあつたけど、んふああつ、それとは、ぜ、ぜ、全然違う…………んんんつ…………」

双葉

「おまんこ、濡れてきちゃう、う、んんうつ、ぬるぬるで、ふ、あつ、ああつ、クリトリスが、また、膨らんで……あ、あ、鉄棒に擦り付けるの、い、い、い、い……」

双葉

「でも、ダメなのに、んあつ、休むために、ん、ううつ、公園に入ったのに、く、ふつ、これじゃ、ああつ、また、疲れちゃう、う、ん、ううつ、もつと……疲れちゃうよお」

双葉

「こんな事しちゃ、あ、だめ、ふあつ、子供達が、遊ぶものなのに、んあつ、はああつ、こんな、お、おまんこ、擦り付けて、ふあんつ、おまんこ汁、ぬ、塗りたくつて、んああつ、これ、犯罪だよ。器物破損、んんうつ、おまんこ汁塗りたくり違反だよお！」

双葉

「んはあああつー 回るたびに、おまんこが気持ち良くなつてくる！ あ、ああつ、鉄棒がおまんこ汁でぐちょぐちょになつて……でも、と、止まらないよおー！」

双葉

「ああああつー ク、クリトリスが、押し潰されるみたいに擦られ、くひああつ、こ、こんなに強い刺激、は、初めて……あ、んああつ……」

双葉

「おまんこ、ビリビリして……ふ、あつ、お、おしつこ、漏れちゃいそうだよお……あ、ああつ、こんなところでしちゃ、ダメ、なのにつ……」

双葉

「あひやあああっ!! もう、これ、ああっ、気持ちいいよおつー<sup>ト</sup>  
持ちいいつ、鉄棒オナニー気持ちいいよおつー<sup>ト</sup>  
手でするのとは全然違う気持ち良さだ  
よおつー<sup>ト</sup>」

「体がふわふわして、あ、ああ……力を抜いた  
ら、鉄棒から落ちちゃいそ……うで……でも……」

双葉  
「んくあああつ！ イ、イクツ、ああつ、もう、  
今日は、あ、あつ……もう2回も、イ、イつて  
る、のに、い、ひ、あああつ……！」

「きやはあああああつ！！！ああつ、おまんこ  
が、ビリビリして、んは、あつ、へ、変な声、  
出ちやう、う、んんんつ、でも、もつと……  
もつと回りたい。もつと回って、はあつ、は  
あつ、おまんこぐりって擦り付けたい！」

「んはあああつ！」

## 双葉

---

双葉

双葉  
「あひやあああああああああああつ――！――ああ、

双葉

「ひやはあああっ……んはつ、あ、ああうつ、  
もつと、お、んぐううつ、もつと、お、  
おおつ、もつと、れ、連續で……」

双葉 「んはつ……」

双葉 「かはああうつ……」

双葉 「あああおおおうつ……」

双葉 「ぐひいいいいいうつ……ひ、ひいつ、変な  
声、出ちやうづ、う、はあつ……ああうつ……  
うつ……」

双葉 「も、もう、ああつ、刺激が、強すぎて、ふ、は  
あつ、ああつ、もう一回、ま、まわつたら、  
あ、ああ、絶対に、イク……んううつ、思いつ  
きり、イ、ちやううつ……」

双葉 「んぐううつ、グリグリつて、つ、強く、う、  
うつ、おまんこを、鉄棒に押し付けて……ん  
ひうつ……」、「これだけでも、気持ちいい、の  
に……」

双葉 「あ、ああつ、腰を前後に揺すつただけで、ふ  
あつ、おまんこ汁の音、する……ぐちゅぐちゅ  
してゐる……」

双葉

「……」「んなエツチな音……外で、出すなんて……私……へ、変態、なのかも……今日、すつ」「へ、変態になっちゃってるのかも……」

双葉

「でも……あ、んんっ、いいよね？ だつて、あふ、あ、こんなに、き、気持ちいい、ん、だもん……もう、変態でもいいよね」

双葉

「あ、ああっ、あああっ、腰振つてるだけで、イク、う、おまんこイク、イキ、そう……も、もう、我慢できないっ！」

双葉

「イツチヤうナビ……ぐるりと回つたら、ゼ、絶対イツチヤうナビ……もう、こんなのが、ああ……回らないわけにはいかないよおつ……」

双葉

「ひやわああああああああああああああああー

――――ジ――――

双葉

「あつ…」

「うぐう……へ、けほり、じゅう……

う、あ……ああああ……」

双葉

「ああ、私……」、「んなと」「ひで、おしつ……」  
「おしつ」「しちゅうつる」

双葉 「みんなの公園なのに……子供達が遊ぶ場所なのに……」「んな事しちゃ、ダメ、なのにい……」

双葉 「ああ、でも、気持ちいい……いつたあとのおしつ」「……野外放尿……ちょっとやりてみたかったんだよねえ」

双葉 「ふああああ、おしつ」「気持ちいいよおおお……」  
「……」

双葉 「はああ……はああ……はああ……  
はああ……はああ……はああ……  
はああ……はああ……はああ……」  
「……」

双葉 「ふ、拭かなきや……鉄棒……うつ……子供達  
が、つ、使うもの、なんだから……」

双葉 「拭いて……早く……お、お店に行かなきや……  
……」  
「……」

双葉 「私の目的は……オナニーすることじゃなくて……  
……オナニーする、道具を、買うことなんだから  
……」

//★トラック5：アダルトショップでローターを買ったたら少女はすぐオナニー  
しゃやうの

●道路沿いの歩道

双葉 「はあつ……はあつ……はあつ……はあつ……  
あつた……田的のお店……」「だ」

「公園からそんなに離れてなかつたのに……はああつ……す」「く、時間がかかっちゃつた」

「おまんこから、おまんこ汁が垂れるの、止まらないけど……もつ、いいよね……ちゃんと変装してるんだから……大丈夫だよね」

「あの……すいません」

「やつた……買えた……念願のローターとバイブ……それ以外にも色々……本当に買えちゃつた」

「あとほこれを家まで持ち帰れば、心おきなくオナニーができるんだ」

「どんな感じなんだろう。やつぱり、ものすくべ気持ちいいのかな？ 意識が飛んじゃうくらいす」「じつて感想も見たことあるけど……」

「そういうえば、ローターを乳首とかクリトリスにつけて街中を歩くつて動画を見たことがあるけど……テープも買ったから、今ならやろうと思えばできるんだよね」

「でも、どれだけす」「い刺激かわからないし、人ごみの中で悲鳴を上げたりしたら取り返しのつかないことになるし……」

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

「それだったら、声を出さなかつたらいいのよね？ 絶対に声を出さないようにすれば、「ここから家に帰るまでの間、ずっと気持ちいい刺激を味わうことができる……」

双葉

「ダメよ。そんな危険な事絶対にダメよ。ただでさえ何度もイつて敏感になつてるんだから」

双葉 「でも、せつかくローターがあるのに、普通に帰るなんてもつたないかもしれないし……」

双葉 「ダメだつてば！ そんな安易な考え方をしてると、本当に誰かに気付かれちゃうよ！」

双葉 「でもでも、それは気付かれないようにすればいいだけだし……それに、今までだつて何かにつけてオナニーしてきたんだから、ローターを使わなくたつて私きつとどこかでオナニーしちゃうし……」

双葉 「そういう考え方だからダメなの！ もつと自分の意思を強く持たなきや！」

双葉 「でもでもでも、大好きなオナニーをやめるなんてできないし、できそうなチャンスがあつたらやつぱりしちゃうし……それならローターだつて使ってもいいはずだよね」

双葉

双葉

「家まで……家まで刺激を我慢すればいいだけだから……あそこなら人目につかずに、ローターを取り付けられるかも……」

双葉 「これで……あとはポケットの中のリモコンのスイッチを入れれば……」

双葉 「大丈夫……声を出さないようにすればいいだけだから……家まで我慢すればいいだけだから……だから……」

双葉 「ふきやわッ！？ あ、あああああッ！？ な、何、これえつ！？ こ、こんなに……？ あぐ、あつ、うあああああ、こんなにすいの……？」

双葉 「ニ、これで、うくあつ、ち、乳首も、クリトリスも、お、うぐううううう、ビリビリするうううう……」

双葉 「は、はあつ、あああつ、これで、い、家まで帰るなんて……ぐ、ふうう……でも、う、ううつ、かえ、らなきや……」

双葉 「呼吸を……く、ふつ……と、整えて……んぐう、ふ、ふうう……ふーつ……ふーつ……ふーつ……気持ちを、お、落ち着かせれば……大丈夫、だから……」

双葉

「ふんふう、か、帰らなきや帰つてう  
うつ、オナニーしなきや…」

双葉

「ふつ——つ……ふつ——つ……ふつ——つ……  
お、おまんこから、おまんこ汁が、ああつ……  
溢れてる」

双葉

「な、なるべく、う、足を開かないよ、ひ、  
ひ、いつ歩かなきや……ひ、ひ、ひ、ひ、  
イ、イキハツ……」

双葉

「兩へなきや……ぐ、うつ……我慢、し、しな  
きや……あ、ああああ、でもおおお……」

双葉

「ぐひいいいいいッ……」

双葉

「い、いひつ、ひ、ひつ、ひいいつ……  
いきなり、いつちやつた……ああ……」

双葉

「家まで、が、我慢ど」ろか……ああ、うつ……  
ぜ、全然、我慢できない……なんて……う  
うつ、」これ、本当に……家まで、か、帰れ  
るの?」

●公園

「ふつ——つ……ふつ——つ……  
ふつ——つ……ふつ——つ……

「あ、い……んつう……せ、せつき、オナニー  
した公園……」

双葉

双葉

双葉

双葉

「でも、もひーに寄る必要は…んくうつ、  
な、ないし…う、うつ、休みたいけど…  
くうつ、休んじゃダメ…」

双葉

「行かなきや…く、ふつ、帰らなきや…あ、  
あああつ、でもおお…す、す」「よおつ、乳  
首とクリトリスう、んんんつ、ビロビリく  
るうううつ…」

双葉

「こ…な、の…お、あ、また…また…またイク、う、う  
うつ…イク…おまん」「イク、う、う  
くううつ…」

双葉

「くひいいいつ…ひ、ひい、いつ…いつ  
ちや、あ、ああ…い、行かなきや…  
か、帰りなきや、ああ…」

●電車の中

双葉

「はああつ…はああつ…あ、あ  
あつ、電車の振動で、え、くうつ、し、刺激  
が、つ、強く…んんつ…」

双葉

「誰も、いない、車両だから、あ、い、いいけど…  
…はあつ、あつ…もう、おまん」「汁」と、  
止まらない、ああ、「この電車も、ふああつ、お  
まん」「汁」で、よ、汚しちゃってる」

双葉

「足が、ガクガクして……んうつ、でも、た、立たないと……んくつ、倒れたら……そんなの誰かに見られたら……人が、来ちゃうかもしけな

卷之三

「でも、パンツも履いてなくて、んんうつ、おまんこ、こんなに濡れ濡れで……く、ふつ、座るわけにはいかないし……」

双葉

「き、氣持ちを、んくつ、落ち着けて……ふ、  
ううつ、んんうつ、でも、くふつ……ローター  
の振動と、電車の振動が、か、重なつて……く  
ひ、ひいつ……そ、外を歩いてる、ときより…  
んんんつ、ず、ずつと、氣持ちいい」

双葉

「は、はひつ、」んな、の、ああつ、涎が、出  
ちやう……んはああつ……」んな顔、してた  
ら、あ、うあつ……また、で、電車の外の、人  
に、んうつ、見られちやう、く、ふつ、恥ずか  
しい顔、見られちやうよお

双葉

「あ、あつ、私、まだ、オナニー、してるん、だ  
よ、くふ、あつ……ローターで、あ、あつ、乳  
首と、クリトリス、う、ビリビリ、して、ふ、  
はあつ……いきそう、に、なつてるんだよ」

双葉

「ふああっ、おまえ!」イク、う、おまえ!」、イク、イク、「うう、おまえ!」いつちやうよおお

- 1 -

双葉

「ひはつ、あ、はあつ……はああつ……あ、あ、  
また……気持ち、いいのが、うああつ、の、  
ぼってきて、ふあ、あ、あ、あつ……」

双葉 「ダメ、なのに……ん、はっ、ああっ、」「で  
イつかや、あ、あふあつ、ダメ、なのに……  
！」

双葉  
「げ、限界、んく、ああつ、乳首も、ク、クリト  
リスも、ひつ、痺れ、え、ああつ、イ、イきま  
くつて、敏感に、な、つてる、から、あ……  
あ、あ、あつ……ああああつ……」

「……」で、いつたら、は、ああんつ、また、床を、  
く、ふつ、汚しちやう、のに……んひや  
ああつ、行くとき、よりも、ふ、あつ、もつ  
と、び、びしゃびしゃに、し、しちやう、のに

双葉  
「もう無理っ、イ、イクッ、んぐうつ、おまんこ  
汁つ、出るひ、う、はああつ、おまんこ」イク  
ツ、イクツ、う、う、うつ、「うんうんうんつ、お  
まん」汁うつ、イツちゅううううつ……

双葉

「かはああああツー？ あ、あうあつ……あ  
あ、また、で、出た……ふああつ……イ、  
イっぢやつ、て、あ、おまんこ汁……ううつ、  
おまんこ汁で、汚し……ふああつ、『ロゴフ  
が、あ、と、止まらなじよお……』

「おまん」汁が止まらないよおおおおお.....

「あ、あ、びしゃびしゃって、あああつ、音が、す」「い、ひつ……」「んなの、うああつ、お漏らし、してると、んぐ、あつ、か、変わらない……ふああああつ……！」

## ●町中（駅前のイメージ）

双葉  
「はあああ…………はあああ…………はあああ…………  
はあああ…………はあああ…………はあああ…………」

「あと……もう、少し……もう少しで、うち、だ  
から……ああ……そこまで、は……倒れ

卷之三

双葉  
「うつ、く……ひ、ひいつ、ビリビリ、  
が、あ……んぐ、う、はあつ……乳首、も、お  
……んんうつ、クリトリス、もお……く、ふつ  
……」んな、あ、ずっと、され、たら……ああ  
ああっ！

「おまんこ汁、はあつ、ああつ、おまんこ汁  
が、あ、うあ……もう、ずっと……止まらない  
……あ、ああ……道路に、ひ、くうつ……ずつ  
と、シ!!」が……

「倒れちや、ダメ……誰かに、み、見られたら、  
あ、あつ……は、恥ずかしくて、ひ、いつ、」  
の町に、す、住めなくなっちゃう

双葉 「だから……ああ、だから……もつ、少し……が、我慢……んんんうつ……」

双葉 「あつー? くは、あああつ……イ、イかない、で……あ、ああ、イつたら、また……お、おおつ、おまん」汁があああ……!」「

双葉 「ぐひいいいいいいつ……い、いいつ、い、いいつ……イツちや、あ、つた……ああ、あ……」

双葉 「はあつ……はあつ……はあつ……い、意識を、しつ、かり……うちまで……あと、少し……なんだから……」

双葉 「うちに帰つたら……い、いくらでも……オナニーできるんだから……」

双葉 「あ、ああ、ローターと、バイブ……バイブは、お、おちんちんの、形、してる……やつだから……い、いよいよ、私も……ふ、ふふつ……」

双葉 「ああ……」つちが……見えて、きたあ……

//★トライック6：イキまくら貰い物を終えて帰宅した少女はすぐオナニーしかやうの

双葉 「つ、着いた……やつと帰つてこれた……」

双葉 「ああ、もう、うちの廊下も玄関からおまん」汁でベトベトだけど、掃除は後回しでいいよね」

双葉 「それよりも……ああ、これ……」

「ああ、本物……夢にまで見た本物のバイブだ  
……本当に買っちゃったあ」

双葉 「もう我慢できない。早く入れたい。おまんこは  
ぐちょぐちよだから、準備はできてるし……」  
「布団の上で……いいよね。きつとおまんこ汁で  
びしょびしょになっちゃうけど、あとで洗えば  
いいんだし……」

双葉 「バイブの感触に集中したいから、ローターは外  
して……あとは……鏡……おまんこにずつ  
ぷりバイブが入ると」「ろ、ちゃんと見たいもん  
ね」

双葉 「んじょっ……角度はこのくらいかな。これな  
ら、はつきりおまんこが見えるし……」

双葉 「あはっ、すっ」「……おまんこぐしょぐしょ……  
…濡れ濡れで光ってるみたい」

双葉 「じゃあ……いよいよ……最初はバイブは動  
かさないほうがいいよね？ 楽しみは最後に  
とつておかないと」

双葉 「まずは……ゆっくり擦り付けて……あ、ひあっ  
……？ あああ、これだけで気持ちいい  
～」

双葉 「ああ、クリトリスに当たるだけで……あつは  
あああつ、すつ」く気持ちいいよおつ！」

双葉 「ふああつ、ああああつ……家中だから、す、  
好きなだけ、声出せるし……あ、あ、オナニー  
気持ちいいつー オナニー大好きいつ！！」

双葉 「ふあ、あ、あつ、もつと……ああ、入れて、ほ  
しい……それ、バイブ……お、おちんちん……  
おちんちん入れてええ……」

双葉 「あんつ、あんつ……ク、クリトリス、ばつか  
り……ふあつ、擦らないでえ……！」

双葉 「お願い……お願いだから、おちんちん……ん、  
んんつ、おち、ん」……おちんこ入れてえ……  
…」

双葉 「ふ、ふふつ、あはつ……」こなら、なんだって  
……」の前プレイしたエッチなゲームみたいに  
……げ、下品な事だつて、い、言えちゃう

双葉 「あああつ、ほしい……おちんこほしい、おちん  
こほしいのお、それえ、あ、あつ、おちんこ入  
れてえ……」

双葉 「私の濡れ濡れのおまんこに、その大きなおちん  
こ入れてえ、おちんこでおまんこ搔き回してえ  
…」

双葉

「は、あつ……あはあつ、体が、こ、興奮して、熱くなつてきちゃう……わざとらしいかなつて、思ったけど……ち、ちょっと、いいかも……」

双葉

「はあつ、はあつ、もつと、は、恥ずかしい」と、言つた、ほうが……ああ、興奮して、か、感じやすく、なれるかも……」

双葉

「ふああつ、おちんこ……おちんこほし……太くてたくましいおちんこ……んんつ、おちん、ぽ……おちんぽが、ほしいの、お……」

双葉

「おちんぽほしい、おちんぽほしい、おちんぽほしい、ああああつ、おちんぽほしいのおおお……」

双葉

「そのたくましいおちんぽを、私のいやらしい濡れ濡れ変態まんこにずつぱり押し込んでええ……」

双葉

「あつ……あはあああああああああつ……」

双葉

「は、入つて、きたあ……あ、あ、バイブが……おちんぽバイブが、ずぶずぶつてんんんつ、おまんこ」の壁、擦つてる……」

双葉

「ふあ、んつ……おちんぽの、形、あ……わかる  
……ん、んつ、本物の、おちんぽと、同じ……  
ああ……」

双葉

「ひ、あつ、ブツブツが、あ……おちんぽバイブ  
の、ひ、表面の、ブツブツが、あ、擦れて……  
あ、んうつ……す”く、く、ふつ、気持ちい  
い」

双葉

「き、きゅうりで、した、こと、あつたけど、  
あ、あんつ、んんんつ、」「こっちのほう  
が、あ、ずっと……ずっとといい」

双葉

「はあつ、あ、やつぱり、んんつ、ゆ、勇氣を出  
して、んくつ、あ、か、買ってきて、良かつ  
た、あ……」

双葉

「あ、ああ、あああつ、ズブズブ、入つて、う……  
……擦れ、て、あ、気持ち、いい、感じ、ちゃ  
う、んはつ、感じ過ぎ、る、ううう……！」

双葉

「んつ、は、ああうつ、奥に……おちんぽバイブ  
の、先っぽが、あ、あつ……」「れ、し、子宮に  
届いてる……子宮に、んんつ、ゴジゴジつて、  
当たつて、る、うう……！」

双葉

「そつか、あ、んはあつ、おちんぽが、あ、と、  
届いたときの、感じつて、ん、あつ、」「つい  
う、感じ、なんだあ」

「ふ、う、あとは、ゆくへり……んんつ、動かせば……」

「んひやつ！？ あああ、擦れる「うつ……ちよつと、う、動かしただけで……んんつ、く……おまんこ」の壁が、あ、あああ、『ゴリゴリつて、して……たまらない……』」

「はあつ……んふああつ……もつと……あ、んううつ……おまんこ、氣持ちいい、あ、ふあつ……おまんこ、おちんぽバイブで、ずぶずぶやれて、んはつ……濡れて、きた、あ、おまんこ汁、あああ、また、溢れてきたあ……」

「これ、あ、これがいいの、お、これを、ふ、あつ、すつと、あ、ああ、味わいたかったのぉ……！」

「私、い、今、あ、おまんこ、つ、使つてる、んだ、あ、あ、あんつ、おちんぽバイブ、だけど、お、あ、あつ、セックス、みたいな、あ、感じに、なってるんだあ」

「んはつ、んはあつ……もつと、してえ、あ、あはあつ、おちんぽバイブ、もつと、んんんつ、動かして……！ 攻めて、あ、んんつ、攻めて、ほしい」

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

「ひあああつ、おまんこ、が、ああつ、ほ、ほぐ  
れて、ひ、あつ、柔らかく、な、なつてる、感  
じが……ん、んんつ、もつと、し、締め付けな  
いと……」

双葉

「「」、あ……んはつ、ああ、「」、いじ……  
ん、んつ、おまんこ、「」、あ、擦れると……  
す、すり」「へく、う……気持ち、い、いい……  
……」

双葉

「それに、んあ、うつ、おまんこ汁の、音も、  
ふ、あつ、ぐちゅぐちゅ、鳴つて、ん、ん  
んうつ、もつ、た、最高、あ、はあつ……  
……」

双葉

「んはあつ、ふあつ、は、あああつ、んつ、あ、  
ああつ、ひ、あ、はああつ、ん、ふあ、ん、  
は、ああ、あんつ、あんつ、ん、ん、ん  
んうつ、はつ、ああああつ……」

双葉

「でも……んんうつ、まだ、ゆ、ゆつくり、動か  
してゐる、ふあつ、だけなのに……ん、んつ、こ  
れで、おちんぽバイブのスイッチを入れたら……  
あ、あ、どうなるの？」

双葉

「た、楽しみは、ん、うつ、後に、とつておきた  
い、けど、でも……ああ、おちんぽバイブの振  
動で、おまんこ、ぐ、ムチヤクチヤに、か、搔  
き回され、たい……」

双葉

オ、オナニー好きな、あ、んんうつ、変態エロ  
まんこ、ううつ、もつと、メチャクチャの、  
グ、グチャグチャにしたい、さ、され、たい、  
ん、う、ううつ、あ……！」

双葉

双葉

あやはああああああああああああああああ

双葉

双葉

「お、おおつ、おまん」「おおおつ、も、謫れ、  
て、かはあつ、あ、あああつ、イクツ、こん  
なのすぐいちゃう、う、ううう、う、イクツ、  
おまん」「イクツ、おまん」「おおつ、おまん」

双葉

双葉

「ああああ、はつ、イ、イつた、けど、お、  
おおおつ、まだ、動いてつ、んはつ、おちんぽ  
バイブ、う、ううつ、動いてる、う、くつはあ  
あああああつ……」

双葉

「！」んなの無理つ、あああつ、た、耐えら  
れつ、きやはああつ、そこ、お、おおおうつ、  
気持ち、いいとこ、ろつ、んつはああつ、ずつ  
と、お、おおおつ、ブルブルくるうう  
つ……」

双葉

「あ、ああつ、あああつ、と、飛んでるつ、  
ひいつ、おまんこ汁つ、んは、あつ、おまんこ  
汁つ、飛んでるつ、ああつ、布団の、や、先ま  
で……んはああつ……」

双葉

「気持ち、いいつ、うああつ、おちんぽバイブ、  
気持ちいいよおつ、あああつ、またイクウ  
ウウウツ……」

双葉

「ぐひいいいいいいいい  
——ツツ！——ツツ！——

双葉

「こくな、あ、はげ、しいつ、ひ、ああつ、も、  
もう、意識つ、くは、ああつ、意識、と、飛  
ぶつ、飛んじゃうつ……」

双葉

「ぎもぢいじいつ、ぎもぢいいよおおお  
おおつ……おちんぽバイブオナニーさ、こ  
おおおおおおおおツツ……」

双葉

「で、でも、お、まだ……へ、動かさなきや、あ  
ああつ、「」の、ブルブルしてる、おちんぽバイ  
ブをおおつ、メ、メチャクチャに、動かし  
て、え、あ、ああつ、もつと、イ、イギ、た  
いつ、めひいいいいじつ……」

双葉

「も、うべ、おおつ、おおおおつ、おまん  
こおつ、壊れてもいいからあああシッ  
！」

双葉

「ふきゅう……ああつ、ぐ、ひやあああつ……  
「れ、うああつ、これこれ」れええつ！  
うああつ、し、振動して、おちんぽバイ  
づうう、んぐあつ、動かして、は、はひいつ、  
擦れ、あ、んはあああつ……」

双葉

「ドリ、ドリ、擦れて、かはああつ、いいつ、こ  
れええつ、た、たまらないつ、あ、あ、あああ  
あつ、イグツ、イグイグイグツ、ううつ  
うううつ……！」

双葉

「くはあああああツ……ああつ、す」、「お、  
ひつ、い、意識、と、飛ぶつ、ううつ、ぐつ……  
ぐ、ぐ、ぐううあああつ……」

双葉

「お、おまんこおつ、おおうつ、か、搔き回され  
てえつ、ひや、はあああつ、し、死ぬつ、  
ううつ、こんな、は、激しい、のおつ、うあお  
おおつ、じぬうううううつ……」

双葉

「でも、お、おへ、おおひ、イグッ、おまん  
「お、イ、イギ、おぐるううつ、うぐああ  
ああつ……」「んなオナニいいじつ、は、はじ  
めでえつ、エサセ、は、うつはああああう  
ツ……」

双葉

「ひやはああつ、とぶつ、あ、んぎやつ、ああ  
あつ、おまん」「じるううつ、と、とびちつて、  
ひ、ぎあああつ、でもおつ、「れえつ、ズボズ  
ボ、す、好きつ、い、ひいつ、すぎいじつ、だ  
いしゅきいいい、うつ……」

双葉

「ぐつはあああつ、また、イつた、あああつ、ま  
たイグッ、れ、連續ううううつ……」

双葉

「はきや、あつ、ひやわあああつ、イグイグイグ  
ツ、ううううつ、何度もおつ、イ、イ、イつ  
びやうのおおおおおシツ……」

双葉

「ふきやああああつ、ああつ、は、あああつ、  
う、もう、」「」のまま、ずっと、お  
おおつ、ずっと、したいいつ、ひいつ、し、し  
んぞ、お、停まつ、そつ、だけど、お、おお  
おつ、うつ、ずっとおおつ……」

双葉

「もうじじつ、ひ、じじつ、これ、でえつ、んぐ  
は、ああつ、しん、ぞつ、おおつ、う、と  
まつ、でも、お、もう、じじつ、んぐおおつ、  
それでも、お、いいのおつ……」

双葉

双葉

一  
うぐああご、イグツ、イグイグイグツ、イグイ  
グイグイグイグイグツ、うううつ、イグウウウ  
ツ、イグウウウツ、い、いんらん、へんた  
いつ、ど口まんこおおおおおつ、イ、イイイ  
イッグウウウウウウウウウウツ！！

双葉

二〇一〇年九月

卷之三

双葉

「はあつ…………はあつ…………はあつ…………  
バイづう…………飛んで、いつて…………はああ…………床  
二、落つ、つかつ…………

双葉

「ああ、もう……死ぬ、かと……思う、ぐらう……  
気持ち、い、良かつ、たあ……」

双葉

「あは、はつ……おまんこ汁、飛び、あぐつて……  
……布団……びしょびしょだ……」

「後片付け…………しないと、いけないけど…………  
はああ…………体…………動かない、よ…………」

「……こんなに、気持ちいい、オナニー…………初めて…………  
…………おの店…………まだ、他にもいっぱい商品  
あつたし…………また、今度…………買いに行っちゃお  
うかなあ」